

2022年11月21日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼CEO 高崎正年
(コード3121 東証スタンダード)
問合せ先 執行役員 CFO 兼財務経理部長 小森格人
(TEL 03-6434-5540)

株式会社バイオジップコード 糖尿病治療薬等の国際特許出願状況に関するお知らせ

株式会社バイオジップコード（以下、「バイオジップコード社」といいます。）は、国立大学法人滋賀医科大学（以下、「滋賀医科大学」といいます。）との産学連携により、糖尿病を完治させる治療薬等の研究・開発を推進するため、2022年1月に、当社が設立いたしました。

バイオジップコード社は、小島秀人氏他によります、糖尿病の治療法に関する2件の発明（2019年10月に国内特許出願。以下、「本件発明」といいます。）につきまして、滋賀医科大学から権利を譲受けております。

本件発明は、バイオジップコード社の事業の根幹をなす発明であり、2020年10月に、下記のとおり、PCT（特許協力条約）に基づく国際出願を行っておりますが、今般、日本、米国、欧州、中国、オーストラリア、韓国への国内段階移行（国際出願について、権利取得を希望する国で審査を受けるために、国際出願を国際段階から権利取得を希望する国へ移行させる手続き）に入り、国内移行手続（翻訳文の提出を含む）が完了し、審査が開始したことをお知らせいたします。各国での審査が進むことで、事業のグローバル化に対応した権利化が期待できるものです。

- ・PCT/JP2020/039044 WO/2021/075535 異常幹細胞を標的とする糖尿病治療
- ・PCT/JP2020/039045 WO/2021/075536 幹細胞遊走剤を使用した糖尿病治療

本件発明の発明者である小島秀人氏は、滋賀医科大学特別教授であり、バイオジップコード社の研究開発顧問として、糖尿病を完治させる治療薬等の研究・開発の中心的役割を担っています。

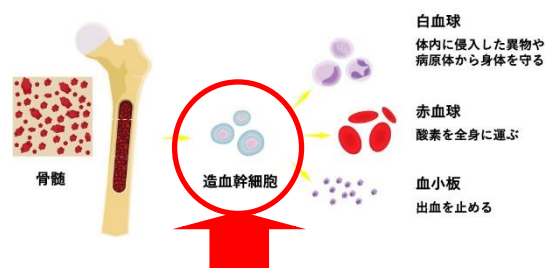
現在、糖尿病治療のために種々の薬物が開発されていますが、多くは血糖コントロールを目的としたものであり、糖尿病の進行防止には有効ですが、糖尿病が完治することはありません。

さらに、いわゆる糖尿病合併症（神経害、腎症、網膜症など）も1型および2型に分類される糖尿病に共通して発症することが分かっていますが、一旦発症すると完治は困難であるとされています。

本件発明は、糖尿病が治らない原因となっている異常な幹細胞を、小島秀人氏が発見したことに基づくもので、その異常な幹細胞をターゲット（標的）とすることにより、糖尿病の新たな診断薬の開発や糖尿病を完治させる画期的な医薬品等の開発を進めるために必要なものであります。

株式会社バイオジップコードでは、本件発明に基づく、糖尿病関連の新たな医薬品の開発を目指し、糖尿病や糖尿病合併症に対する根本的な治療方法の開発をグローバルに進めて参ります。

なお、本件により、当社の2023年3月期の業績に与える影響は現状ございませんが、重要な影響を与える事業が生じましたら、改めて開示させていただきます。



骨髄の中にあり、血液成分に分化する**造血幹細胞**が高血糖により、異常をきたし、ずっと居座るあるいは異常を記憶していることが原因であることが分かった。この細胞を**薬剤A**で無くすことにより元に戻る（すなわち治癒する）ことが可能となった。

※ 「糖尿病幹細胞の発見」(小島 秀人・宮澤 伊都子 他、BIO Clinica 2021年7月臨時増刊号)に記載された内容を要約して図示したものです。

以上